

【全体概要】

本県のいちごは約181ha栽培され、直売や都市近郊の観光農園等も活発であるが、一方では、うどんこ病やハダニ類を抑制するための薬剤防除の労力軽減と減農薬を望む消費者ニーズへの対応が課題となっている。そこで、紫外光照射と反射シートの同時利用が有効であることが示されたことから、これに天敵ダニ等の化学農薬低減技術を組み合わせた、兵庫県のいちご栽培に対応した防除技術導入を図る。

新品種・新技術等の概要

SIP（内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム）により紫外光照射と反射シートの同時利用が有効であることが示されたことから、これらに天敵ダニ等の化学農薬低減技術を組み合わせた現地試験を実証ほにおいて実施し、兵庫県のいちご栽培に対応した防除技術導入マニュアルを作成し現地普及を図る。



実施体制図



課題と今後の対応

令和元年度の技術適応に向けた実証ほにおいて、うどんこ病に対する紫外光照射の防除効果は高いことが確認できたが、ハダニ類に対する反射シートと天敵製剤を組み合わせた技術の防除効果の持続性、また、副次的効果として期待される果実の糖度・硬度・果皮色の増加については明らかとならなかった。

反射シートについて、敷設に手間がかかること、また透水性が低いことによる果実腐敗が生じた。

令和2年度は、ハダニ類と天敵ダニの密度推移の把握や、熟期を統一させた果実サンプリングによる副次的効果の再検証を行い、費用対効果とともに総合的な検証を行う。

主な取組内容

紫外光照射＋反射シートの光利用技術に、天敵等の化学合成農薬低減技術を組み合わせた防除技術について、県内3ヶ所で実証ほを設置し、技術的なポイントを検証した。

また、実需者である仲卸業者との意見交換会により、求められる品質や需要動向について調査した。

